

垂水市立学校の在り方検討委員会の答申書について

- 1 学校の在り方検討委員会の協議経過について 1 ～ 3
- 2 児童・保護者アンケート調査について 4 ～ 6
- 3 学校の在り方検討委員会委員アンケート調査について 7 ～ 18
- 4 地区報告会について 19 ～ 20
- 5 答申書について 21 ～ 22
- 6 その他

1 学校の在り方検討委員会の協議経過について

(1) 第1回 学校の在り方検討委員会 <8月25日(月)開催>

- ・ 委嘱状交付、出席者紹介
- ・ 委員長、副委員長選出
- ・ 説明：これまでの経緯及び本委員会の趣旨について
- ・ 説明：本市の学校の現状について
 - ア 児童生徒数の推移
 - イ 学校施設の状況
- ・ 議事：今後の協議の進め方について
- ・ 議事：保護者・児童アンケートの実施について

【主な意見・質疑等】

- ・ 今後の減少をみて正直驚いた。子どもたちの未来を考えたとき、また、垂水のまちの将来を想像したとき子どもたちにとって、今のうちからより良い環境づくりが必要だと感じた。
- ・ 地域の方々の思いに十分配慮しながら、全ての地域が生きる方向を見出し、理解を進める必要があると考える。
- ・ 児童に統廃合について問うと、難しく考えてしまうので、児童数が減っていく現状について、素直な、純粋な意見を引き出すことが必要かと思う。
→ 小学生向けのアンケートは、学校の形態等、難しい項目を含まない内容を考
えている。また、アンケート実施の際は、先生についてもらうよう配慮する。
- ・ 現在の小学校各学年児童数および完全複式学級となった状況では、既に少人数教育のメリットとして十分に機能していないと思う。統廃合により35人学級統合された場合でも、子どもたちをしっかりとフォローできるということが大切
だと思う。

(2) 保護者・児童アンケート調査 <9月3日(水)から9月12日(金)実施>

調査結果 4～6頁に掲載

(3) 第2回 学校の在り方検討委員会 <10月31日(金)開催>

- ・ 説明：様々な学校再編のイメージについて
- ・ 説明：義務教育学校の現状、取組について
- ・ 報告：保護者・児童アンケートの結果について
- ・ 協議：委員へのアンケート調査の実施について

【主な意見・質疑等】

- ・義務教育学校（9年制）は、小学校だと6年生が幼稚園等だと年長さんが、最上級学年となり、責任を持つような場面があるかと思えます。義務教育学校は、9年生だけが持つのか、小学校のように6年生はそういったことがあるのか。
→ 例として前任校では、最終ゴールを9年生、ミドルゴールを5年生と位置づけていた。6年生を生徒会活動に入れることで活躍の場を作っていた。また、卒業式は9年生だけだが、前期課程修了としていた。
- ・義務教育学校のデメリットがあれば伺いたい。
→ 義務教育学校に勤務して、デメリットを感じたことはないなと思ったのが正直なところである。例えば、どうしても中1ギャップという生徒はいるが、少ないというのを感じた。カリキュラムが変わり連続性があり、登校しにくい生徒がいれば、前期課程の担任等と連携をとり保護者を含めて話ができる。
- ・子ども達の学習活動として遠隔合同授業がある。この授業は画面越しに一緒に学びを共有するメリットがある。野球等の活動では人数がいなければ成立しにくいことから、両方の視点から検討する必要がある。例えば、小さな直行便のバスを運行するという方法もある。どういった子ども達を育てていくことがいいのかという視点から考えていき、予算的に解決できるものか、教育的な価値があるのかといったことでの検討が必要である。

（4）学校の在り方検討委員会委員アンケート調査

<10月31日（金）から11月14日（金）実施>

調査結果 7～18頁に掲載

（5）地区報告会

<11月7日（金）から12月7日（日）開催>

主な意見について 19～20頁に掲載

(6) 第3回 学校の在り方検討委員会 <12月16日(火)開催>

- ・ 報告：地区住民報告会について
- ・ 報告：各委員アンケート調査の結果について
- ・ 協議：学校の在り方に関する中間取りまとめ(案)について

【主な意見・質疑等】

<地区公民館長から地区報告会を開催しての様子や意見等について>

- ・ アンケート調査や地区報告会で意見が出尽くしたと思う。子供の減少による児童や保護者への影響を考えれば、統合はやむを得ない。
 - ・ 今後の地域と学校とのあり方について、地域行事への参加等で距離ができてしまう可能性が危惧される。この課題をどう解決していくのか。
 - ・ これまで地域が担ってきた行事の継承や見守り等、地域と子供の関わりを、地域がどのように取組んでいくのかということを考えていきたい。
 - ・ 統合後の学校跡地の有効的な活用は大事であるが、子供と地域との繋がりを持たせたいという意見が多くあったことからその点を前面に出すべきだ。また、学校跡地の有効活用は教育委員会だけでは難しい課題であり、垂水市全体の総合計画や各地区の振興計画等で総合的に検討していく必要がある。
- 子供の健全育成と地域の繋がりを要望項目に入れたい。学校の跡地活用は、大きな課題と考えており、教育委員会だけでは難しいことから、全庁的な検討委員会の設置を文言に加え、地域の方々のご意見をお聞きしながら進めていきたい。

(7) 第4回 学校の在り方検討委員会 <1月16日(金)開催>

- ・ 報告：委員要望事項調査の結果について
- ・ 協議：学校の在り方に関する検討内容の最終取りまとめ(案)について

【主な意見・質疑等】

- ・ 答申書の敬体、常体等の文言修正

(8) 第11回 教育委員会定例会への報告 <2月10日(火)開催>

- ・ 報告：学校の在り方検討委員会の答申について

(9) 学校の在り方検討委員会答申書の手交式 <2月12日(木)開催>

- ・ 寺床委員長から市長へ答申書を手交

2 児童・保護者アンケート調査結果について

アンケート実施期間：令和7年9月3日～12日

1 児童アンケート（回答率：93.3%）

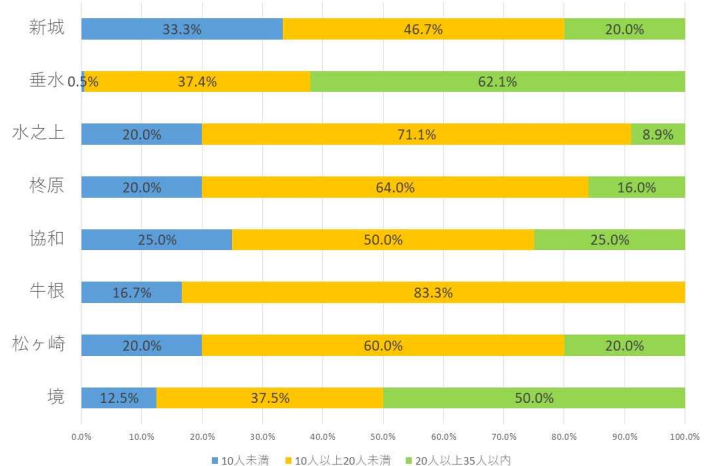
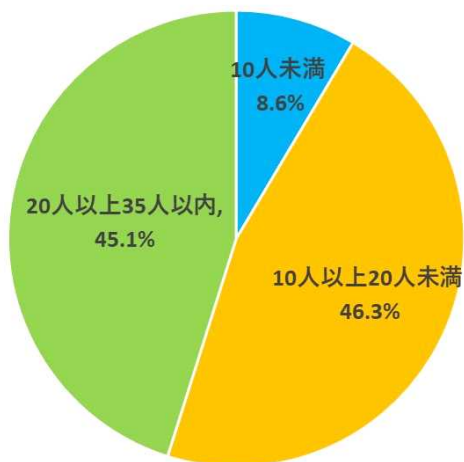
「小学校の1学年の1クラスあたりの人数は、何人くらいがよいと思いますか。」



- 小学生全体では、1クラス「10人未満」が9.6%、「10人以上20人未満」が37.7%、「20人以上35人以内」が52.7%であった。90%以上の児童が、1クラスが10人以上の規模を望んでいる結果となっている。
- 「10人未満」を選んだ理由としては、「少ない方が静かで落ち着く。勉強に集中できる(17)」が最も多く、他に「話す機会が増え、仲良くできる(6)」「けんかが少ない(4)」等の理由があった。
- 「10人以上20人未満」を選んだ理由としては、「少なすぎず丁度よい人数(60)」が最も多く、「友達が増え、楽しそう(38)」「授業に集中でき、いろいろな意見が聞ける(23)」等の理由も多かった。
- 「20人以上35人以内」を選んだ理由としては、「友達がたくさん作れ、にぎやかで楽しい(159)」が最も多く、「今の環境が好きで丁度いい(17)」の理由も多かった。

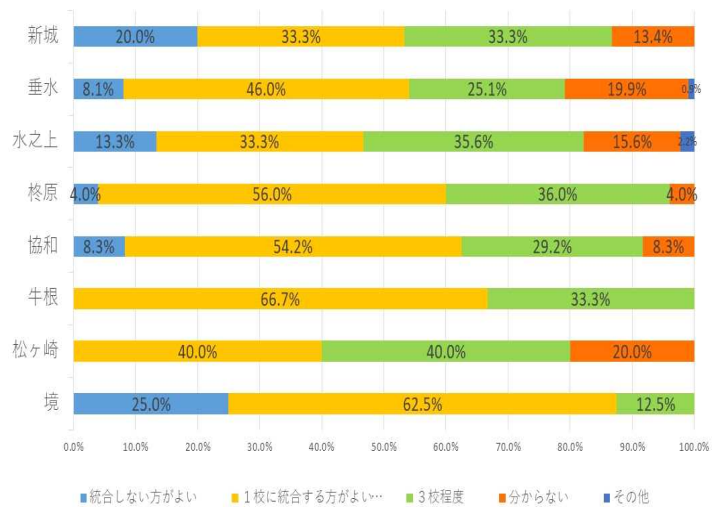
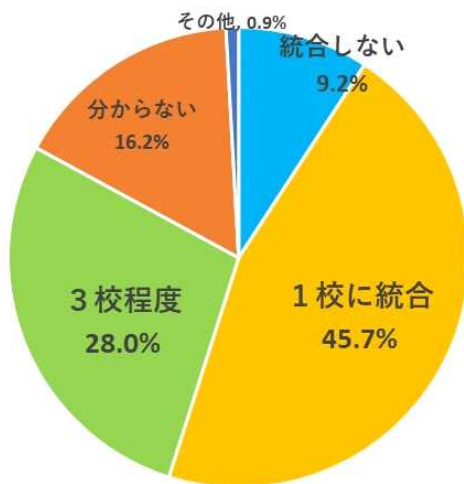
2 保護者アンケート（回答率：67.1%）

(1) 「小学校の1学年の1クラスあたりの人数は、何人くらいがよいと思いますか。」



- 保護者全体では、1クラス「10人未満」が8.6%、「10人以上20人未満」が46.3%、「20人以上35人以内」が45.1%であった。児童アンケートと同じように、90%以上の保護者が、1クラスが10人以上の規模を望んでいる結果となっている。
- 垂水・境校区の保護者は、「20人以上35人以下」の規模を選んだ保護者が最も多く、その他の校区は、「10人以上20人未満」の規模を選んだ保護者が最も多かった。
- 「10人未満」の規模を選んだ保護者は、垂水小校区以外は約20%前後いるが、約80%の保護者は、10人以上の規模を選んでいる。

(2) 「お子様が通学している、または、これから通学する小学校についてどのように思われますか。」(統合は、スクールバスが運行されることを前提とします)



- 保護者全体では、「統合しない方がよい」が9.2%、「1校に統合」が45.7%、「3校程度に統合」が28.0%であった。また、「わからない」「その他」がそれぞれ16.2%、0.9%であった。
- 「1校に統合」が50%以上の校区は、柘原・協和・牛根・境校区であり、「3校程度に統合」は、多くの校区で20~40%程度であった。
- 「統合しない方がよい」を選んだ保護者は、新城・水之上・境校区が10%~25%で、その他の校区は10%未満であった。

◎ 学校の在り方を検討する上で、必要と思われることや意見など（意見の多かったもの）

- 地域の声も大事だが、子供や保護者の声を第一に考えてほしい。
- バス通学の負担も含めた通学手段の検討が必要である。
- 施設・設備の充実が必要である（新校舎やトイレ含む）。
- 安全・安心や子供の心のケアを第一に考えてほしい。
- 居場所確保を含めた不登校児童生徒の対応が必要だ。
- いじめ対策をしっかりと行ってほしい。
- 学力向上に努めてほしい。
- 縮小を含めたPTA活動の再検討が必要だ。
- 1クラスの児童数をあまり多くしない方がよい。
- 教職員や地域の見守りがあると安心だ。
- 他の学校にはない新しい取組が必要である。
- 早急に結論を出してほしい。
- 教育委員会の考えを明示してほしい。
- 支援が必要な子供への対応を充実してほしい。
- 学童の運営を考えてほしい。
- 小学校で、他校との交流を深めてほしい。
- 統合しない方がよい。
- ほどよい人数で切磋琢磨してほしい。
- 小学校から統合した方が中学校生活はスムーズに行く。
- 制服など、保護者負担を考慮してほしい。
- 校区の運動会は残してほしい。
- 小中一貫校を実現してほしい。
- いろいろな立場の意見を取り入れてほしい。
- 幼保・小連携を深めてほしい。
- 検討委員会の立場を明確にしてほしい。

3 学校の在り方検討委員会委員アンケート調査結果報告について

1 対象者

垂水市立学校の在り方検討委員会の委員 40名

2 実施方法

アンケート用紙に記入する方法（無記名）

3 実施期間

令和7年10月31日（金）から11月14日（金）まで

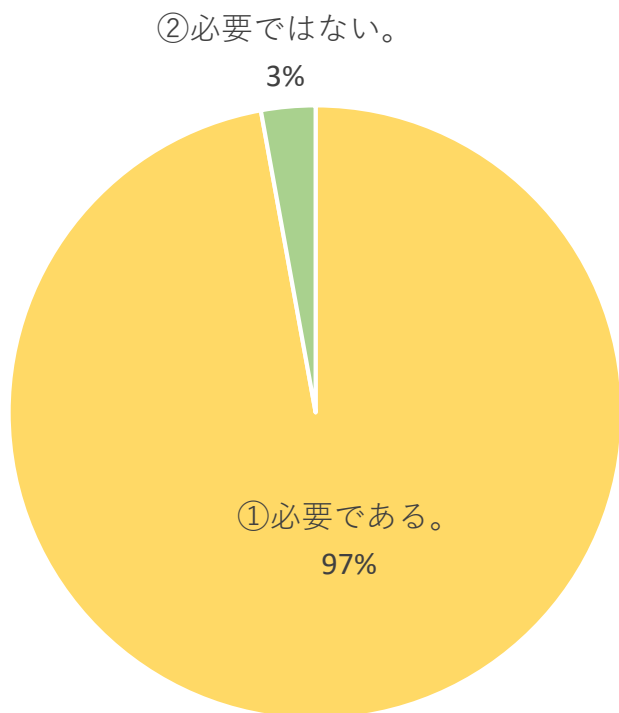
4 アンケート結果

- Q1. 学校の再編が必要だと思いますか。 8
回答理由をお書きください。 9 ~11
- Q2. 再編はどのような形態がよいと思いますか。 8
回答理由をお書きください。 12 ~14
- Q3. 再編に向けて答申書に盛り込むべき意見や要望等があれば
お書きください。 15~18

委員アンケート調査結果報告

【問1】学校の再編が必要だと思いますか。

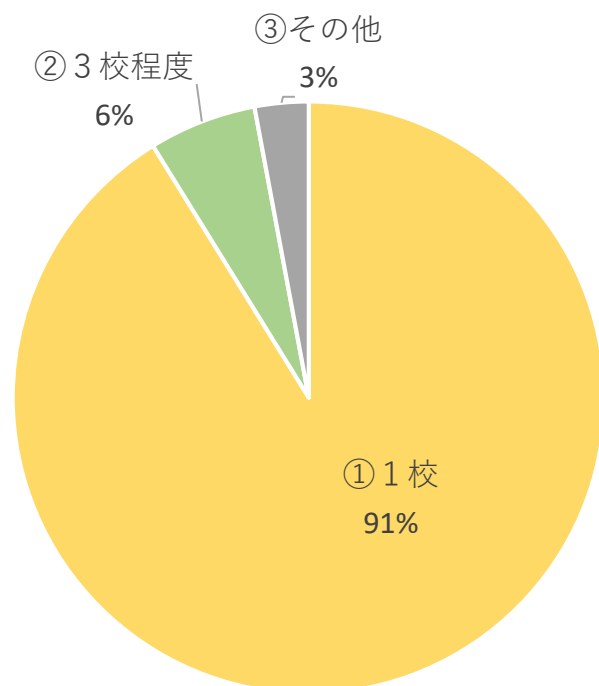
問1	①必要である。	34
	②必要ではない。	1
	合計	35



■ ①必要である。 ■ ②必要ではない。

【問2】再編はどのような形態がよいと思いますか。

問2	①1校	31
	②3校程度	2
	③その他	1
	合計	34



■ ①1校 ■ ②3校程度 ■ ③その他

委員アンケート調査結果報告

【問1】学校の再編が必要だと思いますか。（回答理由）

1	児童数も減ってきており、いくら小規模といっても限度があると思う(少なすぎる) 5年後には必要なことだと思う。
2	これからの時代は少子高齢化がますます進行していく中で小学校の児童数が減少していく。そのような社会で少数児童が学校生活をしていく訳であるが、どこの学校も複式学級での教育では教育教科等の教育は良い点があるが、社会教育(児童同士間)等の関係構築が難しいのではないかと。将来、社会人となって人間関係が上手に出来るのか、疑問であるのである程度の多人数での教育が望ましいと考える。
3	今後の児童数の予想をふまえた時、児童の皆さんの学校生活や市の財政などを総合的に考えると小学校を統合・再編することが現実的であると思います。
4	学校の再編をすることで小規模校とは違う学びの場の構築ができる。また、先生方の数でも充分なものが得られ、よりきめ細やかな指導をしていただける。施設管理・整備の面からも予算を有意義に活用することができる。これらの理由により教育効果が高いと思う。
5	地域の声を聴いても「小学校再編は、もうそろそろだと思う」との声が多い。現在の生徒数の現状や今後の推移を見据えると、「子供たちの可能性を伸ばし、教育環境の向上を図る」という観点からも再編が必要と考える。
6	少人数クラスでも良い点もあると思いますが、集団での行事が難しいことや一定数がクラスにいないデメリットも大きいと思うこと。今後の児童数の予測を見ると再編もやむ得ないと思う。
7	子供達に適正規模の人数で教育を受けさせることにより、人間関係能力等の社会性を培うことができるから
8	課題、深刻だと考えます。
9	年々、子供達が減少していくのは明らかです。今まで当たり前に行っていた行事が行えなくなり、後々再編をした方がよかったと動き出すよりも減りすぎる前に計画をたてはじめないと遅いと思います。
10	児童減少による集団学習の機会が失われるため。
11	子供の数が少ないが学校の維持管理費は一定割合かかる。その分をスクールバス等にまわせないか。
12	垂水市でも急速な少子化が進み、ここ数年の垂水市の出生者数も30人程度であり、2024年に鹿児島県の出生率に関する民間団体の調査の結果、垂水市は特に市町村の消滅可能性自治体となっています。このような状況下では統廃合も含めた再編整備を加速していく必要があると思われます。
13	児童数の減少により、少人数のメリットよりも教育活動の制限等など、児童に不利益なことの方が多いため。

【問1】学校の再編が必要だと思いますか。（回答理由）

14	市の財政が厳しい中、維持していくのは無理がある。
15	<p>極小規模校「1学年1～2人」は1日も早く再編を希望しています。</p> <p>*スクールバス問題点</p> <p>①中学校のスクールバスに乗る場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出発が境だと7:10ぐらい 朝早いのは牛根小でも早い子は7:30には登校するので 問題ないと思います。 <p>②小学校低学年が40分バスに乗ると慣れるまでトイレなどが心配</p> <p>③児童クラブに預ける場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の部活生のバス2便の時間にあわせるのか？ <p>④下校時間が5校時の場合はどうするのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せめて1学期はバスの運転手の他に1名同乗してほしい。(予算の都合もあるでしょうが朝だけでも) ・今、垂水中央中で不登校の子供達で牛根方面の子供達は朝のバスでつまづく子が多い気がします。(乗り遅れなど)バス問題がクリアできれば統合も難しくないとします。 <p>*学校の再編が必要である理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極小規模校(牛根・松ヶ崎小)は学校の再編を急いでほしいと思う保護者がほとんどです。 ・PTA役員なり手不足。P個数1けただと役員も毎年、責任がある役をしなければならず負担が重い。 ・奉仕作業なども地域の力を借りているが限界がある。 <p>*子供達の学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同学年1人2人で6年間過ごさないといけない。友達と関係が悪くなっても逃げ場がない。 ・バレー、サッカーなど大人数でやるスポーツになじみがないまま中学校にあがり、体育の授業でつまづく。 ・10人前後の前で発表するのは慣れているがそれ以上の人数では緊張する。 ・牛根小も松ヶ崎小にも支援を必要とする子供達がいるが統合されればもっと手厚い支援が受けられると思います。(週1回垂水小に通級している) ・地域とのつながりは大事ですが地域の行事などには参加したいと保護者も子供達も考えています。牛根地区ならグランドゴルフ・二月祭り・地区運動会などです。
16	複式学級においても1学級に最低でも2人(例えば、1年・2年で2人、3年0人で4年が2人、5年1人、6年1人)は在席してほしい。学級に1人は避けたいところだと考えます。
17	こども達の教育環境を確保し、教職員配置や学習機会の格差をなくすためには、将来的な学校再編は必要だと考えます。「統合=校舎をまとめること」ではなく、子ども・地域・教職員のつながりをも守りながら進めることが重要だと考えています。
18	将来的に児童の減少が見えており、小規模校の存続は困難ではないか。小規模校はそれぞれに特徴を生かした教育を行っていると思うが、やがてやっていけなくなるのではないか。地域から小学校がなくなるのはさみしいけれど、再編するかどうかは現在・将来の保護者の意見を大事にして欲しい。

【問1】学校の再編が必要だと思いますか。（回答理由）

19	一校に統合することで、垂水の子どものたちの団結力の向上や郷土愛の醸成、何かあった場合の逃げ場の確保、教育環境整備の集中投資などの好影響があり、将来的に垂水のまちづくりを考えた場合、母校を同じくする担い手が結束して、良いまちづくりを実現してくれると思うから。
20	小規模校のメリットとして先生方が児童たち個々人に対し、きめ細やかな授業や子ども達同士の強い仲間意識など良い面ある反面、学校の行事等については活気が薄れ子ども達の行動に弱さを感じます。やはり再編することにより、授業はもちろんのこと大勢の仲間たちと接し、より様々な面において視野を広げることが、子ども達にとって大切なことだと思っております。
21	子どもが減っているため
22	児童の減少により、多様な学びが難しくなっている現状があるから
23	このまま再編がされないと小規模校は、行事やPTA活動も成り立たなくなっていくため。
24	近い将来、学年1人学級の学校が増え、そうするとより少人数の学校の子供達は経験の幅が限られてしまうように感じる。垂水市の全ての子どもが同じレベルの環境で学校生活を送ってほしい。
25	垂水市の少子化で、いない学年がある学校もあると思う。子どもたちの交流が深められたらいいなと感じます。子どもたちならではの「自然に出来る友だち」の感覚を養う機会が多い方がいいと思います。
26	高齢少子化が進む現代において少子化が増々顕著となってくる。小学校においても、このままであると複式学級や児童の居ない学年が出てくる中で児童の教育、特に社会教育(人格形成)等がむずかしくなっていく恐れがある。多くの友達を作ったり、友達を多く作る事により、より良い人格形成が可能となっていくと思う。
27	少人数の学習もいいと思いますが、複式での授業だと意味がないと思います。
28	小規模校にはいいところもありますが、やはり少なすぎでは、できない活動の方が多く、子供達の教育を思うと統合する方がいいと考えます。今後、垂水市では、ほぼ小規模校になる可能性が高く、中学校で一緒になるなら、小学生のうちから一緒の方が不安はないのかなと思います。
29	児童生徒にとって、できるだけ適正な規模にする努力をすべきだから。市の人口減少が予想され、財政的にも将来を見越した対策が必要なため。
30	子供達が触れ合う場所活動が活潑になり小規模校にない子供達大事な伸び盛り、お互いの価値観、思考力を共有できる場ができる。毎日が勉強。切磋琢磨する力に気付いてもらいたい。
31	子ども達の為に必要だと思う。
32	児童数減少・施設の老朽化
33	児童のすこやかな教育環境を整備することが大切だと思います。

委員アンケート調査結果報告

【問2】再編はどのような形態がよいと思いますか。（回答理由）

① 1校	1	3校にしても北部地区も南部地区も複式・飛び複式なら3校にする意味があるのか不明(わからない)現状、北部地区の児童は親の都合で垂小に通学している子もいらっしゃると思います。3校になったとしても居住区の学校に通わずに垂小に通わせたい保護者の方はいらっしゃるのではないかと思います。そうなった時に3校は現実的ではない。
	2	中学校のスクールバスも通っているのでもってそのこと1校が良いのではないかと。ただ、遠方の児童が朝早くなるので今後考慮すべきである。1校になると市内のすべての児童と友達になれると思う。それとこれまでの地域の行事等にも市内の児童も参加出来る可能性もでてくる。
	3	学校全体の児童数や1学級あたりの児童数の予想をふまえた時この機会に1校に再編した上で、限られた予算をその1校に集約し児童の皆さんの学校生活の充実に充てる方が総合的にみるとよいのではないかと考えます。また、1校にする場合には義務教育学校にすることも検討に値すると思います。
	4	義務教育学校への再編が望ましいと考えます。垂水市の児童生徒数の変化をふまえると義務教育学校への再編を見据えて準備を進めていただくことが重要であると思います。
	5	将来的な生徒数の推移から判断すれば、1校での再編が最善と思われます。なお、保護者のアンケートやあり方検討委員会の中で「1校への再編」以外の考えが示されていますが、その方々の懸念の内容を整理し、「1校への再編」の方が良いことをまとめ、丁寧に説明し、理解を得ていただきたい。
	6	今後の児童・生徒数を考えると、地域としては3校程度を望まれとの思いもあると思いますが、近々に再度の再編を考える時期がくると思うので1校での再編が適しているように考えます。
	7	小中一貫の9年制の義務教育学校とすることで、9年間で意図的・計画的な教育活動が推進できるから
	8	3校し、再編しても出生数を考えると課題もあるが1校がよいと考えます。
	9	3校程度にまとめたとしても段々と2校・やっぱり1校が・となる気がします。そうするならば長く時間をかけ、中学校の時の様に「垂水市で1校に」と最善案を話し合う方が時間の無駄がないかと。
	10	集団学習の達成について考えた場合、ある程度の人数が必要で、その場合1校にした場合の人数が適していると考えするため。
	11	大人数と接することで、教育活動や豊かな人間関係の形成ができるなど多様な価値観に触れられるなどのメリットが大きい
	12	3校程度にしたとしてもいずれは、再び再編が必要になるので早い段階で一度に行った方がよい。

【問2】再編はどのような形態がよいと思いますか。（回答理由）

①1校	13	いずれ再編するよより1校にした方が児童・保護者にも負担が少ない。
	14	3校の再編しても5～6年後には成り立たなくなる。中学校も人数が減っていく一方なので小中一貫校を最初から目指す方が良い。
	15	小学生から中学1年生までを一体的に学べる「義務教育学校」として整備することで教育の連続性を確保し、少人数による学力差や部活動の制限といった課題を解決できると考えます。ただし、いきなり統合するのではなく、交流授業・合同行事などを段階的に行ったうえで、地域が納得しながら進めることが望ましいと思います。
	16	段階的に再編を進めていく方法も考えられない事ではないが、やがては小学校1校に再編せざるを得ないのであれば、最初から1校に再編した方がよいと思う。義務教育学校についてはすぐに施設の一体型というのはできないと思うので、校舎が別々になった分離型でよいと思う。教育予算が十分に得られたら、垂水中央中の敷地内に小学校校舎を建てて一体型の義務教育学校をめざせばいい。
	17	同上
	18	この再編成により学習面においては隔たりを縮め、学力向上につながるものと考えます。また、学校生活においても小中学生との交流する機会が増えることにより良い意味での感情が生まれ今後、進学をむかえる上においてもスムーズな体制が整えられると思います。望むことは、早期に再編していただき子ども達が穏やかに健やかに成長してくれることを願っております。
	19	3校にしても満足な人数でないため
	20	垂水市の中学校が1校であることを考えると、小・中一貫校として系統的に学校教育を行ったほうが、児童の連続的な成長を保障できると思うから。
	21	1校の案で今の中央中学校の場所で考えた方がよい。現時点の人数で考えてもR13年の予想案で考えても義務教育学校にシフトしていくべきだと思う。小学校を卒業したら全て中学校に集まるわ
	22	3校程度に再編されても、また人数が少なくなっていくと再度、再編が必要になってくると思うので再編するなら1校にした方がよいと思う。
	23	近年の出生数をみると、将来的には1校に統合せざるを得ない状況が想定されるため。
	24	将来的に少子化が進めば、1校とならざるおえないのではないかと。それであれば当初より1校にする計画でよいと思う。
25	中学で1校になると2～3校にわけても、中央以外は少人数になるのでは・・・	
26	登校距離の問題とさまざまな選択ができる可能性があるため、3校程度が理想ではありますが、今の現状で、将来的に市全体でも1クラス程度の人数になるなら、1校になるしかないのかなと思います。	

【問2】再編はどのような形態がよいと思いますか。（回答理由）

① 1校	27	児童生徒の予想推移を見ると、最終的には1校になるのが当然だと思う。
	28	3校程度に統合しても垂水市全体の児童数が年々減少していく中で問題として統合問題が再度発生するんじゃないか。それならば1校で未来ある子供達の大きな夢を実現してもらいたい。
	29	中1ギャップなどの事を考えると1校の方が良いと思う。少人数の小学校から中学校へ行く事は大人が思っている以上に子ども達にとっては負担(プレッシャー)になっている様です。
	30	3校にしても数年後には同様の問題が発生する。
	31	将来性を考えると早めに一校にして子どもや地域の安定性につながるものと思います。
② 3校程度	32	距離の問題があると思いますので3校程度で考えてもいいのかなと思います。
	33	1校にすると遠方が大変になる。段階的に規模縮小していくべきである。
③ その他	34	上記の例を下回ってしまった学校は、令和13年度(仮)の統合予定を待たずに垂水小への統合をして、令和13年度には、できれば全てを垂小へ統合させる形が良いと考えます。

委員アンケート調査結果報告

【問3】再編に向けて答申書に盛り込むべき意見や要望等があればお書きください。

1	特別支援が必要な子供達のクラス運営をきちんとしてほしい。児童に負担がかからないように支援を充実させてほしい(教員の充実)不登校・いじめの未然防止・対応策をしっかり提示してほしい。保護者もスクールカウンセラー・ソーシャルワーカーと話ができる場が希望すればできるようにしてほしい。もし1校になった時バス登校の負担・児童同士のトラブルが解決できる仕組みを提案(作って)ほしい。
2	これからの社会を担っていく児童が数多くの児童同士が切磋琢磨していくことで1人1人の人間成長が出来ると思う。
3	「地域における学校の役割」という視点も重要かと思いますが、まずは「児童の学びの充実」という視点からの議論が最優先かと考えます。児童の成長という視点からみた場合、1学級には一定数以上の児童がいるほうがよいように考えます。
4	通学に関する保護者の不安をやわらげるためにスクールバス1台ずつの運用ではなく旧小学校区ごとにジャンボタクシーやマイクロバス等運用も検討していただきたい。市として所有することも考えられますし民間委諾ということも考えられると思います。各小学校区ごとの教育活動(特色)を総合的な学習の時間で行うことも目玉になると思います。(例 協和地区かんぱち餌やり体験とか)その際、通学用の交通手段を利用することにも有効と考えます。校内教育支援センター・サテライト教室の取組もありがたい施策ですがさらにもう一步進めて学びの多様化学級の設立も今後ご検討いただけると大変ありがたいと思います。小学校・中学校の集団宿泊学習を大野の自然の家(旧大野小中学校跡)で行えるようにできたら面白いと考えます。水道設備等の改善は必要ですが猿ヶ城城溪谷での水遊び、またピザ窯体験等とてもプログラムが価値があるものである。
5	再編に向かった場合の子供達の心のケアを大事にしてほしい。
6	スクールバスの運転手の方々の雇用の問題を再編に合わせて検討を進めていただきたい。1校の場合、スクールバスの運用本数が増える可能性があるからである。また、この場合、現状の各学校の今後の用途も同時に検討をお願いしたい。
7	昔ながらの風習や大人数になった時のトラブルを恐れて反対する方がいらっしゃいますが、クラスに同学年が1桁しかいないまま中学校へ上がり大人数の中へ入れられるよりも保育園・幼稚園にいた人数とあまり大差なく、小学校では過ごせるように環境を整えるべきではないでしょうか。
8	子どもの安心安全を第一に、保護者に信頼されるような再編実施に向け少数意見にも十分に耳を傾け、納得と同意ある説明が必要と思います。
9	通常(過去の例から)委員会が立ち上がってから4~5年後に統合が実現すると思われるが、一刻でも早い実現を期待します。

【問3】再編に向けて答申書に盛り込むべき意見や要望等があればお書きください。

10	バス通学児童のトイレ、体調問題対策。早い段階で学校の場所を決めて、保護者・地域の理解を得る。
11	<p>・まず、今回の「あり方委員会」の位置づけ（どこまで話し合うのか）について、方針提示の段階（盛り込む結論の内容）を明確化した方が良いと思います。</p> <p>学校再編の協議の大きな流れ、つまりステップとしては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現状把握・課題整理（→なぜ統合の話が出ているのか、共通認識をつくる） ②賛否の整理と情報共有（統合のメリットとデメリットの整理、デメリットの改善方法案の提示） ③再編の目的と基本方針の提示 ④再編形態の複数案の検討・提示と市民等への説明 ⑤地域意見の収集（市民の理解と丁寧な説明） ⑥合意形成プロセスの段階 ⑦実施計画の策定 ⑧フォローアップ <p>以上の流れと思われるが、本年度の「あり方検討委員会」では「子どもたちの未来を共に考える」ことを基本として確認し、上記の①、②、③段階でのまとめとすべきと考えます。</p> <p>つまり、現在の「あり方検討委員会」等の場で話題になる『学校施設は新設なのか既存の校舎を使うのか』とか、『6・3体制よりも義務教育学校等の方が良いのか』等の議論は、市の財政面や、より効果のある学習カリキュラムは何なのか等の専門的な検討が必要と思われる、次のステップで検討すべき課題と思います。</p> <p>次に、地域選出の委員として今後の議論に望むことは、アンケート等に市民の声として、「地域での見守り」、「伝統行事、地域行事への参加による地元愛の醸成」等、各地域での良い面を今後もいかしていくように望まれている声が多くありますので、今後も『地域力』をどのように子供たちの健やかで健全な育成に結び付けていくかの観点をだいにさせていただくことを望みます。</p> <p>以上。</p>
12	スクールバスの件
13	保護者や地域から丁寧に意見を伺う必要はあると思いますが、一番深く考えておられる教育委員会がリーダーシップをとり、最も良い時期と方法を決断されることを望みます。
14	<p>・統合前から合同運動会・合同授業・合同学習旅行など「心の統合」を進めてほしい。・遠方地域が「切り捨てられた」と感じないように、旧校区の学校施設を地域拠点として活用できるようにしてほしい。・AIスクールバスやICカード登下校通知など、安全面・通学面の不安を解消する仕組み導入を検討してほしい。（補助金制度も活用可能）・義務教育学校になることが目的化しないよう「垂水らしい特色ある教育」を明確にしてほしい。・保育園・幼稚園段階から交流を計画に含め、子ども達が安心して進学できる流れを作してほしい。・地域学校協働活動推進事業などを活用し、地域行事や愛好作業などの文化が途絶えないようにしてほしい。</p>

【問3】再編に向けて答申書に盛り込むべき意見や要望等があればお書きください。

15	再編後は小中学生と各校区との日常的な関りが薄くなっていくような気がする。再編後はスクールバスで小学生も中学生も通学することになると思うか。再編の時期にもよるが、現在の経済・交通状況から考えて、バスの確保や運転手の確保が難しいのではないか。
16	統合することで、子どもたちの教育環境が充実することや、将来的なまちづくりに好影響を与えると考えられることを盛り込んでほしい。
17	各家庭の保護者の皆さまにおかれましては、色々と事情もおありかと思いますが今後将来を見据え、また時代の流れを見据え、これから成長していく子ども達の為にもこの再編の形態について熟考して頂き判断頂けたらと思います。地域からの要望としましては、仮に再編された場合、これまで行ってきました地区や集落での行事またイベント等については、これまで通り継続して子ども達も参加出来るようご配慮下されれば幸いです。
18	弱者への対応。学校にいけなくなった子のケア
19	設置する場所とその理由について
20	バス通学になる子ども達への配慮(通学バスに運転手以外の職員をつける。バスの便を増やす。小型バスを使う。)小規模校から、統合された学校に行くとなるとギャップで不登校などなりやすいと思うので、慣らし期間をもうける。
21	再編は必要と思われるが、通学をどのようにするのか、校舎を何処にするのか？1年生の児童が遠方からの通学となると早朝となる。また下校時間も違って行くので通学の問題やPTA組織の編成等を考えてほしい。地域と小学校との交流等も考慮すべき点だと思う。これまで児童等が地域行事に参加していく工夫も必要と考える。
22	小学生のバス通学は、不安もあると思います。でも、園児もバスで通っているのも無理ではないと思います。予算でまかなえるなら運転手以外に1人つけるとか、高学年や保護者に交代でしてもらうなど…地域の行事なども地域以外の子どもも参加できるようにしたらいいのでは…
23	今年から検討が始まり、すぐに実現することが難しいのはわかりますが、学校によっては来年、再来年…今のままの学校生活で大丈夫かと不安になることもあります。今後の在り方を考えながら、今悩んでいる子供と保護者の言葉も聞いてほしいと思います。根本的に国全体の少子化問題が原因だとは思いますが、その中でも子育て世帯が垂水市に住みたいと思う街づくりをしないと垂水市の子供は減ってしまうのではないのでしょうか。統合したり、小中一貫校になったことで子育て世帯が増えたりしたという市や地区などはあるのかが知りたいです。
24	学校跡地の利用案・校歌等の保存。再編した場合、校章・校歌等はそのまま垂水小のものでいいのか。再編校を垂水小の現校舎を使うのか、新しく建設するのか。

【問3】再編に向けて答申書に盛り込むべき意見や要望等があればお書きください。

25	学校に子供がいなくなる以上に校区という存在がうやむやになり、地域行事ができなくなったり、学校職員との関わりがなくなったりすることが残念に思う人がいるのではないか。地域行事のサポートをする人材や学校の教育活動と連携させることができたらいのではないか。再編に向けて各校を兼務(あるいは往き来)し、つなぎ役になる人材がいると連携がスムーズになると思う。遠方からの通学を考えて、例えば始業を8:30にし、下校をなるべく早められるよう、日課表をスリムにしてはどうか。
26	子供達のゆとりある教育を望みます。宝子達もっている大きな夢をかなえてほしい。(時代ばかりが先走りしているから)
27	再編することによって、地域性の伝統などを継承することは大切だと思います。

4 地区報告会について

11月7日から12月7日にかけて、市内全域、地区公民館単位で開催した。

(1) 報告内容

- ・これまでの経緯及び垂水市立学校の在り方検討委員会について
- ・検討委員会の進め方について
- ・保護者・児童アンケート調査の結果について

(2) 主な意見

【垂水地区】11月07日（金）

○人口減少による統廃合の必要性は認識している。振興会は校区で成るため、核となる学校をなくすなら、今後も子ども会等の活動を行っていきけるよう、細やかな配慮をお願いしたい。

○スクールバスの運行について出発時間等の配慮を検討していただきたい。

【牛根地区】11月12日（水）

○保護者アンケートの意見にある、「地域の声も大事だが児童生徒、保護者の声を第一に考えてほしい」が重要であり、ぜひ優先してほしい。

○牛根小や松ヶ崎小などの極小規模校は、学校の再編を急いでほしい保護者がほとんどである。同学年1人～2人で6年間過ごさないといけなく、友達と関係が悪くなっても逃げ場がない、バレー、サッカーなどの大人数でのスポーツが出来ない、中学校入学に伴い、大人数になじみがなくコミュニケーションでつまづきやすい。保護者も少ないためPTA活動が難しい。遠距離通学となりスクールバスが心配であるが、低学年へ配慮すれば、スクールバスさえクリアできれば統廃合も難しくない。統合後の地域との関わりについて、保護者、子どもたちも行事等に参加したいと考えている。

【松ヶ崎地区】11月13日（木）

○統合に賛成である。振興会長だが、運動会の手伝い等も受け手がいない。統合して、振興会長の負担が減れば、担う人も増えるのではないかと思う。都会にでた時のことも考えると、子どもたちには、程よい人数で切磋琢磨してほしい。

○統合した方がよいと思う。学力面でも、スポーツ面でもある程度の人数がいた方が、切磋琢磨できてよい。

【新城地区】11月14日（金）

○中学校の統合では、柘原地区、新城地区は地域としては反対したが、生徒やその保護者からは「反対しないでほしい」という意見を貰った。

○どのようにしてもメリットデメリットはあると思う。地域でも統廃合に抵抗のある人もいると思うが理解してほしい。

○生徒一人に先生が一人の教育環境に魅力を感じ移住した。統廃合には不安を感じるが、行事等におけるPTAは負担である。子どもたちは柔軟であり慣れていけば統廃合を行っても平気ではと思う。地域行事が無くなると大変さみしい。

○地域行事について、不安であったりさみしく思ったりすることは自分を含め、地域の人は皆同じ気持ちだと思う。自分の子どもも新城小で育ち、気持ちとしては大変さみしいが、学年で5名～10名程度ならだが1～2名の児童数となれば看過できないと思う。

【柘原地区】11月18日（火）

- 児童数の多い学校に通学させるため柘原地区から引っ越した人もいる。柘原地区に住んでも児童数の多い学校に通学できるとなれば、地域に留まることになる。
- 子どもたちの人数をみると統合に賛成と言ってよい。柘原地区も状況が厳しいため、統廃合を急ぐ必要がある。
- 統廃合により、地域としての活動が十分に行えなくなるのではないかと心配である。行政として十分配慮していただきたい。

【境地区】11月18日（火）

- 地域コミュニティの核となる小学校が残ってるっていうことは大事なことだが、学校の主体は誰なのかというのが一番で、学校の主体は児童生徒であるべきで、子どもの将来を真剣に考えてほしい。その責任は親、地域、行政にあると思う。
- 中学校も含めた、義務教育学校も検討すべきである。
- スクールバスの乗車時間について、兄弟で乗り合わせたり、他地区の友人も乗ってくるため、問題なく楽しく過ごせるのではないかと。都市圏であれば、30分以上公共交通機関を利用する通学などざらにある。
- 今回、統廃合しても子どもの減少は止められない。今後の人口減少に急ぎ対応が必要だと思う。地域維持のため、牛根地区に学校を1校以上残してほしい。
- 校庭に子どもの声が響くようイベントを行っている。「境地区、境小学校は居心地が良い」といわれるたびに、学校を残したいという気持ちになる。地域に育ててもらおうというのも、教育の方法の一つではないか。統廃合は行わず学校を残してもらいたい。

【水之上地区】11月20日（木）

- 統合することは保護者として嬉しい。友達が増えてよいと思う。子どもたちにとって地域の存在は大きいと思う。地域行事の行事をどのように継承していくかが地域の課題だと思う。
- 1年生はよいが、5・6年生はすでにグループが出来ており馴染めない子も出てくると思う。準備期間として他の学校との交流ができるとよい。
- 水之上小は減少傾向にあり、これまで同様の運営が出来なくなりつつあり様々なことを考え直す時期である。統合するのであれば早くしてほしい

【協和地区】11月21日（金）

- 子どもが減少し統合は仕方がない。小規模校のままだと垂水市から転出する判断材料にもなってしまう。今後、学校だけの問題でない。
- 多くの人と関わることで、他の地域のことを知る機会も増えると思う。子どもたちが減っている中で統合を少しでも早く進めてほしい。
- 子どもが、小規模校交流や他の児童クラブに通うことで、同じ保育園の子と再会し大変喜んでおり、統合に賛成である。
- 地域の方々と話すと、保護者も地域の方も、もうそろそろだと考えており、統合は仕方ないという意識になっている。地域に学校が無くなるのは寂しいという意見もあったが、子どもたちの可能性を最大限生かせる環境を整えるのが一番大切だと思う。

令和8年2月12日

答 申 書

垂水市長 尾脇 雅弥 様

垂水市立学校の在り方検討委員会
委員長 寺床 勝也

垂水市立学校の在り方検討委員会は、垂水市教育委員会からの諮問を受け、本市の次代を担う子供によりよい教育環境の下、充実した学校教育の実現に資するよう、保護者、児童の意見を尊重し議論を重ねた。ここに、本委員会の検討結果をまとめ答申とする。

1 基本方針

「将来の担い手となる子供たちにとって、よりよい学びの場となるよう検討を進める。検討に当たっては、当事者である子供と保護者の意見を大切にする。」ことを基本とし、垂水市教育振興基本計画で基本目標に掲げている、「夢や希望を実現し ともに未来を創る垂水の人づくり」を目指すこととする。

2 今後の方向性

(1) 学校の適正規模

子供たちが多様な考えに触れ、切磋琢磨することのできる教育環境の構築を最優先とし、今後の児童生徒数の推移を考慮し、可能な限りの集団規模を確保できるよう学校の統合が必要と判断した。

(2) 統合の形態

小学校を1校に統合する。

(3) 統合後の学校の位置

本市の地理的条件や児童生徒の多くが生活する、中央地区が適当と判断した。具体的な場所の選定については、基本構想等を策定し検討すること。

(4) 統合の時期

速やかに学校施設整備を完了し開校すること。

3 要望事項

- (1) 統合準備委員会等を設置し、統合する上で必要な検討事項については、保護者、地域等の意見を伺い、統合方針の決定に努めていただきたい。
- (2) 学校の統合にあたり、学校施設の老朽化対策やバリアフリー化等、安全性・機能性を有し、児童生徒が安心して通える施設の整備を行っていただきたい。
- (3) 放課後児童クラブの設置等の教育環境の整備をしっかりと行っていただきたい。
- (4) 学校の統合にあたり、児童生徒が環境の変化に対応できる体制の整備を図っていただきたい。
- (5) 児童の通学距離・時間がこれまでよりも長くなることから、低学年に配慮した通学手段を確保していただきたい。
- (6) 統合までの間、各学校が、授業や学校行事等を通じて積極的に児童生徒の交流の場を設けるとともに、PTA行事等を通じた保護者同士等についても交流を図り、統合後の学校生活等に円滑に対応できるよう「心の統合」を進めていただきたい。
- (7) 統合後も地域行事等が継承され、地域ぐるみによる子供の健全育成が図られるよう、支援をしていただきたい。
- (8) 統合後の小学校跡地の有効的な利活用策については、各学校の施設の状況や地域の特性があることから、学校全体の計画に加え、各学校の個別計画が必要である。
全庁的な検討委員会を設置し、地域と共に総合的に検討する場を設け、伴走型の支援をしていただきたい。

4 まとめ

この「最終まとめ」を受けて、垂水市の学校が将来の担い手となる子供たちにとって、より良い学びの場となるよう、教育委員会において、施策の確実な実施と学校への支援を行っていただき、「夢や希望を実現し ともに未来を創る垂水の人づくり」の実現に向けた取組が加速していくことを期待する。

垂水市立学校の在り方検討委員会委員名簿

	委員区分	役 職	氏 名	備 考
1	1号委員	新城小学校 校長	有村 重輝	
2	1号委員	垂水小学校 校長	山下 裕司	
3	1号委員	水之上小学校 校長	花里 弘克	
4	1号委員	柗原小学校 校長	竹井 敏秀	
5	1号委員	協和小学校 校長	弓指 修	
6	1号委員	牛根小学校 校長	中山 克彦	
7	1号委員	松ヶ崎小学校 校長	西 武久	
8	2号委員	新城小学校 PTA代表	隈元 竜馬	PTA会長
9	2号委員	垂水小学校 PTA代表	迫田 和文	PTA会長
10	2号委員	水之上小学校 PTA代表	堀之内 洋平	PTA会長
11	2号委員	柗原小学校 PTA代表	中田 美春	PTA会長代理
12	2号委員	協和小学校 PTA代表	石堂 浩之	学校運営協議会委員
13	2号委員	牛根小学校 PTA代表	大坪 由香	PTA会長・市P連会長
14	2号委員	松ヶ崎小学校 PTA代表	田村 心一	PTA会長
15	2号委員	境校区 保護者代表	新屋 泉紀	牛根小PTA副会長
16	2号委員	垂水中央中学校 PTA代表	野間 洋昭	PTA会長
17	3号委員	新城地区代表	畦地 昭洋	公民館長
18	3号委員	垂水地区代表	倉岡 孝昌	公民館長
19	3号委員	水之上地区代表	瀬脇 幸一	公民館主事
20	3号委員	柗原地区代表	梶原 誠	公民館長
21	3号委員	協和地区代表	野嶋 正人	公民館長
22	3号委員	牛根地区代表	井上 辰己	公民館長
23	3号委員	松ヶ崎地区代表	久徳 洋一	公民館長
24	3号委員	境地区代表	濱田 瑞穂	公民館長
25	3号委員	大野地区代表	松元 正美	公民館長

垂水市立学校の在り方検討委員会委員名簿

	委員区分	役 職	氏 名	備 考
26	4号委員	新城こども園代表	関 和弘	副園長
27	4号委員	さざなみ保育園代表	黒川 皓司	園長
28	4号委員	慈恩保育園代表	吉富 和夫	園長
29	4号委員	カトリック垂水幼稚園代表	泉 光浩	園長
30	4号委員	認定水之上こども園代表	伊地知 光秀	園長
31	4号委員	江ノ島幼稚園代表	福里 由加	園長
32	5号委員	新城こども園 保護者代表	重吉 伸哉	
33	5号委員	さざなみ保育園 保護者代表	宮迫 沙織	
34	5号委員	慈恩保育園 保護者代表	松尾 祐輝	
35	5号委員	カトリック垂水幼稚園 保護者代表	浦元 駿	
36	5号委員	認定水之上こども園 保護者代表	上園 佳澄	
37	5号委員	江ノ島幼稚園 保護者代表	森 正秋	
38	6号委員	鹿児島大学 教授	寺床 勝也	
39	6号委員	鹿児島大学 教授	山口 武志	
40	6号委員	認定こども園南部幼稚園	隈崎 和代	

オブザーバー	垂水中央中学校 校長	永田 真一	
--------	------------	-------	--

事務局	教育総務課長	小池 康之	
	学校教育課長	川崎 史明	
	教育総務課庶務係長	駿河 博之	